

平成25年度AI・HALL自主企画

伊丹想流私塾第18期生公演

三つ目の椅子

【監修】北村想

【総合演出】林慎一郎(極東退屈道場)

【演出】高橋恵(虚空旅団)、林慎一郎(極東退屈道場)、小原延之、岡部尚子(空晴)

【作】伊丹想流私塾第18期生

いちかわとも、馬越万実、オダタクミ、苧環涼、大道みなみ、田中和子、藤解麻璃亜、長江高史、はやま。

北村想塾長のもと、筆力を磨いてきた9名の新進劇作家たちが、関西で活躍する俳優・演出家に協力を仰ぎ、「卒塾公演」に挑みます。今回のお題は「三つ目の椅子」。趣向を凝らした短編戯曲の連続上演にご期待ください。



【出演】あらいらあ、上田康人(空晴)、牛嶋千佳(コトリ会議)、

影山徹(劇団子供巨人)、神藤恭平(DanielLonely)、中元志保、

ののあざみ、はたとしようこ(桃園会)、濱本直樹(DanielLonely)、

松原一純(A級MissingLink)、峯素子(遊気舎)、村山裕希(dracom)、

や乃えいじ(PM/飛ぶ教室) [50音順]

【スタッフ】舞台監督:塚本修(CQ)、照明:杉野信次(エスエフシー)、音響:今里愛(エスエフシー)

【日時】

平成26年3月8日(土)19:00、9日(日)14:00

※受付開始40分前、開場20分前

【料金】前売1,200円 当日1,500円[日時指定・全席自由]

【会場】アイホール (伊丹市立演劇ホール) [JR伊丹駅前]

〒664-0846 兵庫県伊丹市伊丹2-4-1



【チケット取扱・お問合せ】

アイホール TEL:072-782-2000(火曜日休館)

メール:info@aihall.com URL:http://www.aihall.com

※事務所窓口でも取り扱っております。

【主催】

公益財団法人伊丹市文化振興財団・伊丹市

平成25年度 文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業



『三つ目の椅子』は「みつめのいす」と読む。「みつめのいす」なら妖怪、化け物になる。では、「みつめのいす」ならどうなるか。数字には、順序数というものと、集合数というものがある。前者は、簡単にいえば、順番に数を数えていくもの。林に立っている木の数を近いところから数えると、一本め、二本め、三本め、 n 本め。といった場合は順序数で、木の数をひとまとめに、ここには20本の木がある。あっちの林は21本だったから、こっちは一本少ない、とこれが集合数。そこで『三つ目の椅子』の場合だが、これは順序数を想定してもイイし、集合数でもイイ。のだが、これが何かの暗号ということもいえる。あるいは符牒として使われているものかも知れない。さらにいうならば、どんな数的な意味をも持ち合わせないということもある。メタファーとして扱う場合だ。母親が子供にいう「あなたは世の中の椅子になりなさい」。もちろん、椅子職人になれといっているのではナイ。椅子に化ける魔法を会得せよといっているのでもナイことはたしかだ。また、「オレのあだ名は三つ目の椅子だ。何故なら、いつも第三者的な存在だからだ」てな場合。これは、数的のようで、そうではナイ。「第三者」は、位相だから。ふつうなら「椅子」とするところを、人偏の「倚子」としたところは、なんとなく無機物ではなく有機物としての扱いも出来そうだという、おまけつき。さて、その座りごちはどんなものか、それは観てのお楽しみ。

北村想

AI・HALL